

## 食料科学委員会 畜産学分会（第25期・第5回）議事録要旨

1. 日時 令和4年8月31日（水）10:00～11:30
2. 場所 ビデオ会議
3. 出席 眞鍋昇（二部会員）、枝重圭祐、小澤壯行、柏崎直巳、木村直子、  
後藤貴文、遠野雅徳、山下恭広、吉澤緑（連携会員）、菊地和弘（特  
任連携会員）  
欠席 束村博子（連携会員）

### 4. 議事

眞鍋昇委員長が、以下の進行を務めた。

#### (1) 定足数の確認

10名が出席し、分会は成立した。

#### (2) 前回（第25期・第4回会議）の議事録要旨案の承認

第25期第4回分会の議事録要旨案を確認後、承認された。

#### (3) 報告事項

##### A. 第25期総会、二部会、委員会の審議事項などについての報告

眞鍋昇委員長より、総会・二部会などでの協議・報告内容について、第25期発足時の6名の会員任命問題へのその後の対応、第26期日本学術会議会員候補者の選考方針の検討状況（任命回数や分会構成員バランスへの配慮、推薦システムの透明化の検討など）、各分会からの意思表示としての提言・対外報告などの発出の流れの検討状況（分会単位の発出内容を承認するボトムアップ形式から、より日本学術会議がオーソライズした形式に見直すかどうかの検討）、について報告された。

##### B. 第25期の報告（科学的な事柄について、部、委員会又は分会が行った審議の結果を発表するもの）について

眞鍋昇委員長より、「農学委員会・食料科学委員会合同会議（第25期第3回・8月23日開催）用資料」について説明があり、第25期中に畜産学分会として、DX（デジタルトランスフォーメーション）技術を活用したスマート放牧を主題とする「グリーン成長戦略」を具現化する先端的家畜飼養管理システム、加えて本分会が過去に主催したシンポジウムの内容から、畜産学の多様性と先端性を取りまとめた記録を作成する方向で提案を行った旨の報告がなされた。

なお、各分会からの意思表示の流れについて、現在検討中のフローチャートが紹介され、今後、記録の作成に向けた具体的な対応を検討することが確認された。

#### (4) 審議事項

##### A. 今後の公開シンポジウムの開催について

世話人として山下恭広委員より、令和4年11～12月開催予定とする公開シンポジウム「持続的な畜産経営を目指したスマート技術と今後の展望」の趣意書について説明があった。世界的に進行する人口増加や気候変動、国際社会情勢の変化による食糧危機に備え、我が国の食料の安定確保に向けた「今後の持続的畜産のあり方」として、ロボット技術やIoT・AI技術などの先端デジタル技術を駆使した「最

新スマート畜産」をテーマに、導入事例や研究開発中の先端的技術を紹介し、今後の展望について議論する内容であることが紹介された。内容について意見交換の後、微修正を加え、日程を決定次第、幹事会に提案することで了承された。第一候補日12月11日（日）の午後、第二候補日12月18日（日）の午後とした。

このほか、柏崎直巳委員より令和6年度（2024年度）に開催予定の日本畜産学会百周年記念大会（京都）での公開シンポジウム、菊地和弘委員より令和8年度（2026年度）に開催予定の第20回国際動物繁殖学会（20th International Congress on Animal Reproduction-ICAR2026-、帯広）での公開シンポジウムの日本学術会議畜産学学科会の共催が提案され、今後検討することを確認した。

## B. 日本畜産学アカデミーの活動について

眞鍋昇委員長より、第25期第3回畜産学学科会で提案・了承された日本畜産学アカデミーの規約改正案（オンラインを利用した総会の開催、事務局の移動）について、令和4年3月に、畜産学アカデミー会員に審議依頼し、概ね了承されたことが報告された。これを踏まえ、日本畜産学アカデミー規約の改定日を令和4年8月31日として、運用することが提案され、了承された。

### （4）その他

#### ・公開シンポジウムの実施報告書の提出

後藤貴文委員より、公開シンポジウム「グリーン・デジタルによる持続的食料生産：環境保全型DX支援放牧のポテンシャル」（令和4年3月20日（日）13：00～17：30）の実施報告書を提出した旨の報告があった。現地とオンラインのハイブリット形式にて開催し、合計のべ166名の参加者となった。持続可能な飼養管理という学術の視点だけでなく、農業ビジネスやアニマルウェルフェア、有効的カーボン循環、先進地オーストラリアの視点から議論し、我が国に最適化された方策を考える機会となった。

#### ・日本学術会議「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募への農学分野の対応について（依頼）の意見交換

追加議題として、眞鍋昇委員長より、本日配信された掲題資料に基づき説明がなされ、農学関連分野で連名提案することを前提とする学術研究構想テーマ「変わりゆく地球環境のもとでの食料システムの持続性」に関して、畜産学学科会からの課題提案内容について、意見交換がなされた。

地球規模でのCO<sub>2</sub>の排出抑制・吸収増加に繋がる森林育成や植物生産と、家畜飼養管理のよいバランス、資源循環やバイオマス資源としての家畜排泄物の高度利用化、農業の担い手問題や持続的食料生産の重要性を浸透するための消費者教育など話題に上がった。後日、眞鍋委員長が意見を取りまとめ、提案することとなった。

・ 次回の分科会の開催について

次回の公開シンポジウム開催日に合わせ開催予定であり、改めて日程調整を行う。

配信資料：

事前配信

- 1) 本学術会議畜産学分科会（第25期・第5回）議事次第
- 2) 畜産学分科会第25期・第4回会議議事録要旨案
- 3) 公開シンポジウム「持続的な畜産経営を目指したスマート技術と今後の展望」の趣意書案
- 4) 日本畜産学アカデミー規約
- 5) 農学委員会・食料科学委員会合同会議（第25期第3回・8月23日開催）用資料、分科会から意思の表出を行う場合のフローチャート

当日配信

- 6) 日本学術会議「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募への農学分野の対応について（依頼）

本分科会開催にあたっては、日本学術会議事務局 河野道子参事官（審議第一担当）が同席した。

以上